

2018 年度立命館学校教育研究会総会・春季大会 報告

■総会

立命館大学衣笠キャンパスの学而館において、2018 年度立命館学校教育研究会総会を開催いたしました。

総会は、児玉会長の挨拶で始まり、2017 年度事業報告や 2018 年度活動計画、2018 年度の運営委員の体制について提案があり、いずれも拍手をもって承認されました。また、教職支援センターより 2018 年度の教員採用試験受験結果について報告があり、大学を取り巻く進路状況について情報が共有されました。



■春季大会

今年度は、『『教科』時代の道徳授業を創る』をテーマとして、本年度から小学校で教科化された道徳授業について、四天王寺大学の杉中康平准教授を講師としてお招きし、ご講演をいただきました。

冒頭、「道徳」教科の特徴について講師の先生から参加者へ問いかけがあり、他の教科との相違点等について複数の参加者から活発に意見が出されました。その後も、道徳科の授業において「自己」を見つめることの重要性や、物事を多角的・多面的に考えるための方法、主体的・対話的な学習がもたらす深い学び等について幅広くお話がありました。教材の使いこなし方や発問の仕方といった具体的な授業方法にも触れながら、非常に一体感の感じられる講演となりました。



当日は、教職課程を履修する学部生、本学教職研究科(教職大学院)院生、現職教員など約 60 名の参加があり、杉中先生のお話熱心に耳を傾けていました。参加者からは、「タイムリーな内容で、ユーモアや具体的な事例をまじえた話ぶりで大変心に伝わる講話でした。あっという間に時間が過ぎました。」「道徳授業の指導案についてどのように作っていけばいいのか、わからなかったのととても参考になりました。」「今直面している悩みが全てに近い形で解決しました。」といった感想が寄せられ、参加者の満足度の高さを伺い知ることができました。講演会の最後には、岡本真一副会長から総括いただき、盛会のうちに講演会は終了しました。

講演会後には、校種別に分かれて分科会を開催しました。直前の講演会を受けて、勤務校での事例や現在抱えている課題などについて、参加者同士が自由な意見交換を通して、新たなネットワークを構築されていました。

講演会後には、校種別に分かれて分科会を開催しました。直前の講演会を受けて、勤務校での事例や現在抱えている課題などについて、参加者同士が自由な意見交換を通して、新たなネットワークを構築されていました。

以上